



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 333号 2011.4.12 発行 社会政策研究所

---

### <臨時増刊 333号記念所感>

今思うこと 震災から1か月、そして、大阪府議会選挙等が終わり

社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所 所長 小尾 隆一

#### ◆はじめに

巨大地震、大津波、深刻な原子力発電所の事故、放射能による汚染の拡散、おさまらない余震、家族や知り合いの消息不明、長期化する救援活動、先の見通せない非日常・・・不安定な社会の要因が続く中で、今、私たちは何を考え、どう行動すべきなのでしょう。そして、生活や事業・活動に大きく影響する大阪府議会選挙などが終わりその結果が出ました。この時点で、政治や経済などの動きと合わせて少し整理してみました。

今、私たちのとる行動は次の5点です。「<sup>かた</sup>固める」「<sup>きさ</sup>支える」「<sup>は</sup>馳せる」「<sup>そな</sup>備える」「<sup>かま</sup>構える」。一つずつ説明しましょう。

#### ◆「<sup>かた</sup>固める」

大地よ、鎮まれ。大地よ、鎮まれ。そう願わずにはおられまい。足元が揺らぐ中で、安心して落ち着いてふるまうことは難しい。これまでの日常と異なるテレビや新聞のニュース、人々の会話、予定変更や滞る生活物資、等々。多くの人々が不安にさいなまれる。ましてや、知的障害のある人にとっては、それを表に出す人出さない人にかかわらず、ただならぬ状況や不安定な事柄を感じ取っている。

そんな時だからこそ、支援の基本を固めよう。業務の基準をしっかりと保とう。私たちは何に基づき支援をしているのか。何を根拠に業務を行っているのか。「個別支援計画」「業務手順書」「支援記録」など、その基本となることをもう一度固めよう。

#### ◆「<sup>きさ</sup>支える」

ここ数年間は、しばしば生じる予定や手続きの変更、制度の改変に、知的障害のある人も翻弄されてきた。その説明と理解と納得は一筋縄ではいかない。しかし、他の分野と異なり、私たちの営みは知的障害のある人の立場に立ち、構築された信頼関係の下でその説明と理解と納得を得る行為が必ず伴う。そのための知識と技術を絶え間なく磨くこと。

この絶え間なく磨くことは、相当の経験を積んだからとか、ベテランになったからと言って完成されるものではない。社会状況が変わるごとに学び直し工夫を重ねていかなければならない。それは支援者自身も変わる事。その変わることに躊躇しては支える質が低下しかねない。

#### ◆「<sup>は</sup>馳せる」

これまでの制度の変更に加えこの大災害に襲われた。発災後の余震回数だけをとりても阪神淡路大震災の100倍というすさまじい状況が続いている。そして、それはこれからも

続くと見るのが常識的な見通しだ。支援は長期化する。その生活状況に思いを馳せる。そして、私たちは何ができるのかを一人一人考える。組織として行うことだけではなく、一人の人間として何ができるのか。思いをそれこそ思い切り馳せる。思いを馳せながら行動するということが必要だ。

正しい情報を得る。応援のメッセージを発信する。募金活動をする。ボランティア活動をする。現地でも遠地でも。買い占めない。エネルギーを節約する。仕事を頑張る。被災地を応援できるものを消費する。いろいろと馳せられる。

#### ◆「<sup>そな</sup>備える」

多くの犠牲者を出したこの大災害を教訓にしないとイケない。たまたま自分はこの大災害に見舞われなかっただけ、あるいは運よく命が助かったこと。このこと背景に多くの犠牲者がおられる。この大災害を教訓に何に新たに取組まないといけないのかを考えることが、いま、ここにあるものにとって必然なことだ。たとえばもう一度、安全のためのマニュアルを点検する。防災の手順を改めて考える。倒れそうな家具などは固定しているか。非常口はちゃんと通れるか。消火器は使えるか。もしもの時に備える営みはたくさんある。

これとともに、これまで効率化を図るあまりに、脆く浅薄なシステムになっていなかったかを社会全体で再議論・再構想することがいる。日本の特定の一地域が被災するだけで全体が崩れるような、あるいは大きく影響されるような社会システムを見直すことが日本の政治経済には不可欠だ。

#### ◆「<sup>かま</sup>構える」

この東日本大震災とともに大阪の政治経済に大きな影響を与えることが、橋下知事率いる「大阪維新の会」の躍進だ。大阪府議会は過半数以上を占め、大阪市議会と堺市議会で第一党と躍進した。この地域政党がどのような政策をとるのかということ。多様な見方があるが、少なくとも大阪府議会では、議決が思うままにできるという「力」を持ったということは紛れもない事実。しかし、昨日、橋下知事はこれまでの「大阪都構想」を白紙に戻すと宣言し、当選した議員集団の政治的意図が不鮮明になってしまった。

これまでの議員集団からすると、比較的若く人間関係や社会的経験がさほど厚くない議員集団がいったい何をするのか。その動向に注意し構えなければならない。「若く」「健康な」「男中心」の価値観を基礎に、政策の優先順位を取られたら、障害者福祉は崩壊しかねない。それに対処するためにしっかりと構えなければならない。

#### ◆おわりに

以上、「固める」「支える」「馳せる」「備える」「構える」を概観しました。自分自身の仕事や生活に迷ったら、この事柄を思い起こしてほしいと思います。今何を考え何をしないといけないのか。大震災から1カ月が経過し、さらに、激しい余震に襲われる現地の知り合いの安否を気遣い、また、大事な統一地方選挙前半戦が終了した時点での私の整理です。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行